

## 第1章 琵琶湖の風の民俗

青柳 智之

(日本民俗学会会員)

はじめに

本稿は琵琶湖にまつわる風の伝承を民俗学の資料によりまとめた調査報告書である。平成10年8月29日～31日、9月6日～8日、23日～29日、10月3日、10月31日～11月3日、12月6日の延べ19日にわたって琵琶湖湖岸の集落を巡訪した。調査内容が当地の風の伝承という点であることから漁師の話に耳を傾けるべく、国土地理院発行の5万分の1の地形図を参考に、主に漁業を営んでいると考えられる箇所を調査先に選んだ。この中には現在は漁業が行われていない集落も含まれる。

内容は大きく7項目に分類した。気象観測に見られるデータと民間伝承との関連性を考察するという研究会の趣旨を考慮して伝承者の話に耳を傾けてきたが、長年にわたり培われてきた庶民の「風」観を探るといふ民俗学の視野を念頭に置いているため、観測データと直接結びつかない項目もある。第5・7・8節はその一例である。むろん他の項目についても、観測データとの関連を考察するのみならず、民俗学の視座で考察を深める必要があることは言うまでもない。

本稿では著者の勉強不足も災いして考察をするに至らず、事例の報告に重点を置いている。先述したように、観測データと民間伝承の関連を考察するという点から今後はデータの検討もしていくわけだが、その過程でさらに伝承資料の聞き取り調査を徹底させる必要がある。

### 第1節 風とトキ

#### 1. 琵琶湖の卓越風

##### 1-1 年間の風

(1)年間の7～8割は北西風である。

[滋賀県彦根市八坂町 森忠助さん  
大正7年生まれ]

(2)年間の7～8割はヤマンバイ(北西風)である。

[滋賀県彦根市須越町 疋田新作さん  
大正9年生まれ]

(3)ミナミヒガシの風とキタニシの風は季節に関係なく強い。

[滋賀県東浅井郡湖北町海老江 今井俊美さん  
大正10年生まれ]

(4)イブキオロシは季節に関係なく吹く。雲は北に向いて流れる。

[滋賀県高島郡マキノ町西浜 和田弥栄男さん  
大正15年生まれ]

(5)年間を通して伊吹山に雲がかかれば、南東の風が吹く。

[滋賀県高島郡マキノ町新保 平山次夫さん  
昭和25年生まれ]

(6)ミナミカゼは季節に関係なく、西・北西風になる。このとき、キタ・ニシの雲は切れ、アオテが出てくるとアマゲはあがり、風になる(アオテが出てくることを「マドが開く」という)。

[滋賀県高島郡安曇川町北船木 大置省三さん  
昭和6年生まれ]

##### 1-2 一日の風

(1)オカからウミへ吹く風を「ウチビアラシ」と言う。朝のうちに吹く風で、天気・季節に関係ない。

[滋賀県彦根市須越町 疋田新作さん  
大正9年生まれ]

(2)「カンザキシモトイテ」と言い、朝のうちカン・カミ、南西の方角からサキ風(南風)が吹いていても、夕方になると、シモ・北西の方角からトイテ(北西風)が吹いてくる。

[滋賀県高島郡今津町南浜 田村喜代治さん  
昭和8年生まれ]

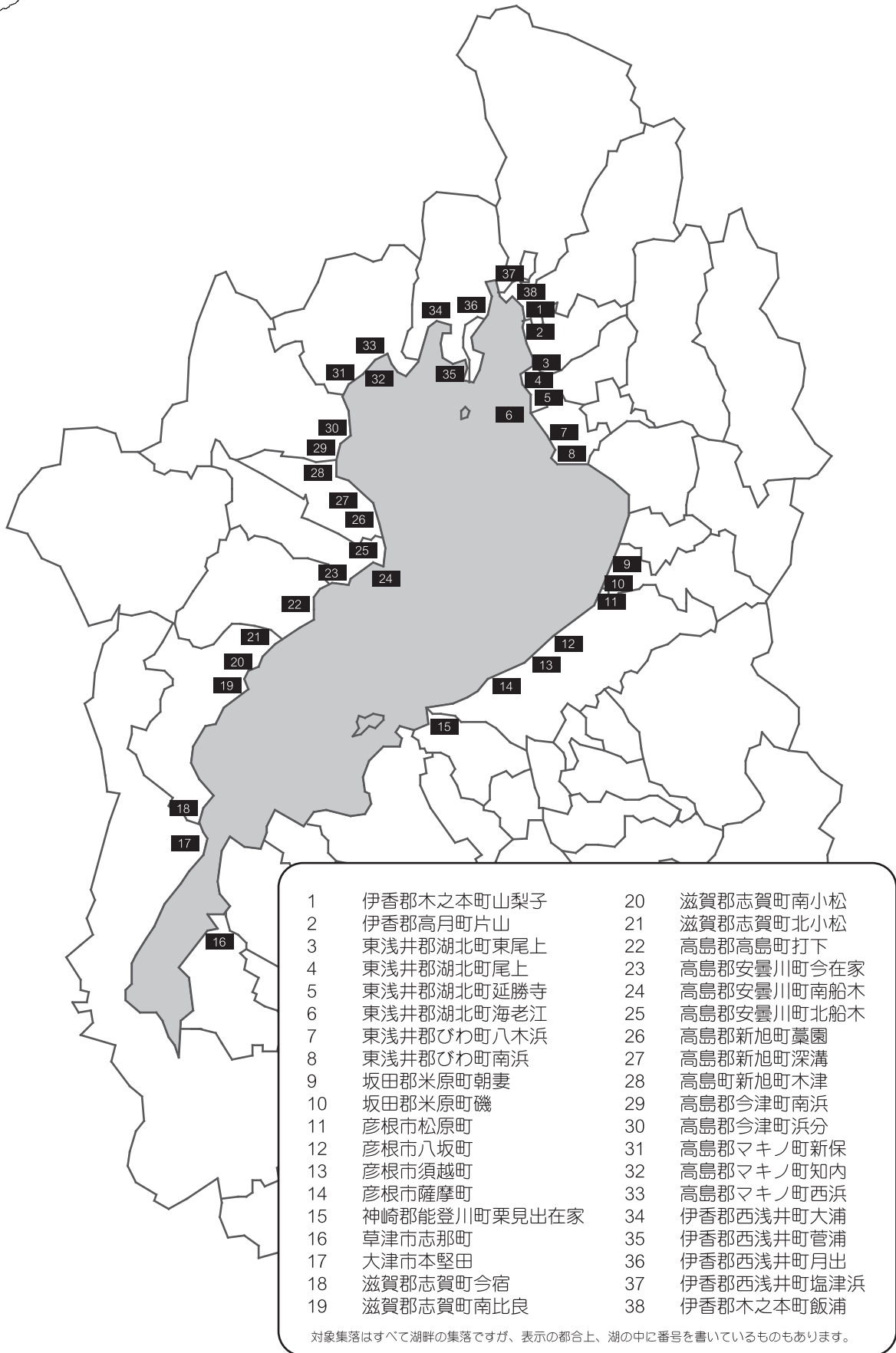
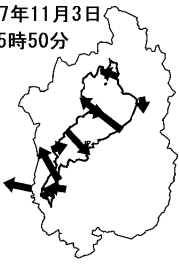


図1 調査先集落一覧